

令和3年度 六郷高等学校教育振興会 議事録

期日：令和3年7月16日（金）

会場：六郷高等学校会議室

1 開会のことば

2 会長の挨拶

全県総体が2年ぶりに行われ、またオリンピックを控え華やかにいきたいところではあるが、コロナウイルスの心配は拭えない。そうした中においても子供達にはのびのびとした生活を通して、各自の進路に向かって頑張ってもらいたい。そのための後押しをしていきたい。本日は忌憚のない御意見を出していただきたい。

3 校長挨拶

日頃から美郷町より手厚い支援をいただき、感謝を申し上げたい。この会議は校舎改築に当たっての期成同盟が母体となり、当時の六郷町や仙南村など地域の支援をいただきながらスタートした。無事に改築も住んだ後、平成7年（実質は平成8年）より教育振興会に名前を変えて新たにスタートし、今日に至っている。今年度もたくさんの支援をいただいております、有意義に活用していきたい。そのためにも多くのお知恵を拝借しながら進めていきたいので、よろしくお願ひしたい。

4 議事

- ・令和2年度事業報告、決算ならびに監査報告
- ・令和3年度事業計画案、予算案
- ・役員改選

資料参照の上、拍手にて原案を賛成。

5 学校状況説明（校長より）

生徒数が年々減っている。今年の入学者数は44名であり、定員確保に向けては引き続き学校として頑張っていきたい。現在の全校生徒は159名で、多くが地元の美郷中学校出身である。

部活動については、ソフトテニス部とバレーボール部で部員がいないため活動を現在は停止している。自転車競技部は各学年1名ずつの合計3名で活動している中で、2年生選手のインターハイ出場が内定している。文化部については、部員数が心配された吹奏楽部は1年生を迎えて活動を頑張っている。本校の特徴は地域との連携という要素が大きい。1年生では地域探究学習を展開し、昨年度も町の御協力をいただいて校外学習や学習講話等を実施した。2年生については、各コースの特色を活かすことをねらい、教養コースは畑での作物栽培、ビジネスコースは畑日記というミニ新聞の作成に取り組んでいる。畑作業の記録を目的にしたミニ新聞作りに際して、秋田魁新報社より講師

をお招きし、学習する機会を持つことができた。この畑日記の記録は近隣中学校に配付済である。

昨年度の事業報告でも話題に出た情報環境整備について、県の予算を受けて生徒全員がタブレットを使えるようになり、現在各授業において活用されている。タブレット専用の保管庫を各学年のフロアに設置するために学校独自の予算で対応した。ICT関係では生徒にうまく利用させるためにも振興会をお願いする場面があるかもしれない。また、全学級にエアコンが設置されたおかげで夏場の学習環境が随分と改善された。

進路について、昨年は95名の卒業生を送り出し、その多くが県内(地元)就職している。地域を支える人材の輩出という大切な役割を本校としても果たすことができていると思う。

福祉科について、昨年度の国家試験における結果は18名の受験に対して16名が合格した。合格率として約90%である。全国平均が約80%に対して高い合格率を維持している。

振興会の多大な御理解と援助をいただき教育活動を何とか進めることができた。今後も引き続きよろしくお願ひしたい。

6 質疑応答

<佐藤良一様より>

福祉科募集のあり方は適正であるか、現在のくくり募集が曖昧ではないのか。来年度に向けて、定員の数値目標などを設けているのか。

<校長より>

正直、福祉科単独募集をかけても、中学生自身に福祉分野に進むという固い意志を求めた募集形式は難しいと思う。現状のくくり募集形式により本校入学後、福祉に関する学習等により理解と認識を確実なものにした上で福祉科を選択決定するシステムが現時点では妥当だと考える。仮に、初めから数値目標を掲げても、入試段階で2桁に満たないことも考えられ、そこから福祉の学習を希望する人数が増えないことも考えられる。

<佐藤良一様より>

周辺の専門高校で職業フォーラムを実施したが、在籍する学科での学習と出口希望が一致していないことが多い。例えば400人に対し、学科に直結する進路を希望する生徒は3人にとどまっている。この点では本校福祉科は出口と直結しており、現に進路結果に表れている。これは立派なことであり、県内唯一の福祉科として本校の特色として十分活かせるのに活かせていないのではないだろうか。

<福田世喜様より>

福祉科においては国家試験合格が1つの壁になるかもしれない。他の専門学科は入学の間口が広く、国家試験を抜きに色々と出口を考えやすいという実態があるのかもしれない。

<佐藤良一様より>

高校入試段階で福祉科志望に関して、どの程度質問しているのか。

<校長より>

学校側から積極的に特化して質問は特にしていない。さらに、福祉科のカリキュラムは厚生労働省のガイドラインに沿った厳しいものになっており、学ぶ上で誰でも構わないというわけにはいかない。強い進路意識と高い学習意欲がないと福祉科で学ぶことは難しい。よって入学後の基礎学習や面談を通して本人と家族の理解と意欲を確実にさせ、着実に巻き込んでいきたい。

<福田世喜様より>

幅広い本校での人間教育により、生徒はしっかり育っていると思う。どう成長しているかを広報する上での工夫をさらにしていただきたい。

<佐藤良一様より>

普通科におけるビジネスコースと教養コースの在籍人数バランスはどうなっているか。

<校長より>

人数としては、およそ半々である。

<佐藤良一様より>

ビジネスコースの就職先をPRできればいいのではないだろうか。例えば畑で育ったものを加工、販売できれば、ビジネスの基本や社会に出てからの武器等、実践的な学習ができるはずだ。

<福田世喜様より>

1年生男子の部活動入部率が高いようだが、自転車競技部のように歴史と結果を出している部活動であれば県外に募集をかけてもよいのではないだろうか。また、指導者として外部活用を考えてはどうだろうか。

<校長より>

募集に関しては、1つの方法として考えたい。現在は中学3年生を対象に自転車競技について知ってもらうためのイベントを開催しているので、これをまずは活かしたい。また、外部指導者として自転車競技連盟より競技経験を持った方をコーチとして迎えて指導に当たっている。

7 閉会のことば